

運動部活動顧問のための安全対策マニュアルの発刊とその効果

～利用状況調査・分析と課題～

北海道高等学校体育連盟 研究部

北海道北広島西高等学校

南原賢二

1. はじめに

北海道高等学校体育連盟（以後：道高体連）の研究部設立が、平成元年である。平成3年度に「全国研究大会北海道大会」が開催されることとなり、開催準備と今後の専門的な研究部門に北海道全体として取り組んでいくことが、大きな命題として今日に至っている。

活動当初から「運動部活動生徒数調査」を軸に、平成6～9年には「高等学校部活動実態調査～保護者・生徒・顧問の考え方～」を調査・報告した。北海道における部活動加入状況の推移についての考察と、活動を支えている生徒・顧問・保護者に対する意識調査から、部活動加入数の減少に伴う問題提起や顧問の指導上の悩みを知ることができた。とりわけ、指導上における問題として「専門外」「指導の初心者」「けがへの緊急対応」など現場での問題が浮き彫りにされた。その課題解決と部活動の活性化を目指し「部活動顧問のための指導ハンドブック」作成に向けた取組を平成11～14年に行い、平成14年7月に発刊した。その後、利用状況調査を実施し平成17年に改訂版を発刊した。

次に、「安心」をキーワードに捉え、平成18年度より2カ年計画で「運動部活動顧問のための安全対策マニュアル」の策定に取りかかった。1年目は種目別の安全対策チェックリストの作成を中心に作業を進めた。道高体連に加盟している32種目、それぞれの競技の事故防止に向けた内容について、各専門部委員長と協力しながら原案の作成を進めた。このチェックリストは指導者が活動する上での基本的な留意点を怠らないよう、事故防止に向けた項目を具体的に示したものにした。今研究大会では、ハンドブック・マニュアルの発刊までの経緯と、活用状況についてアンケート調査を運動部活顧問に実施した結果と今後の課題を考察する。

2. 研究の概要と内容

(1) 「運動部活動顧問のための指導ハンドブック」の発刊までの経緯

道高体連組織の活性化を促す意味から、運動部活動を指導する立場の先生方に何らかのアプローチが必要と考え、「安心」をキーワードに、平成11年度から作成に取りかかった。このハンドブックの狙いは、初めて顧問を持ち、また、専門外の種目でも安心して指導に当たることができ、積極的に部活動における生徒の健全育成を目指したいという願いを込め、3カ年の歳月をかけ、平成14年度に完成した。この冊子の内容は、運動部活動における傷害の基礎知識を中心に、事故発生時の対応や北海道全体で活躍しているスポーツドクター一覧を掲載した。発行に至るまでは、大学教授からの助言、専門ドクターの監修を受けるなど多くの関係者からご協力を頂いた。ただ、発刊冊数の関係で全顧問に配布するまでに至らず、各学校の規模に応じた冊数配布とした。



平成14年度以後、北海道教育委員会の協力を得ながら、ハンドブックの周知徹底を図ることを目的に、毎年開催されている初任者研修会の席に於いて、研究部員が配布・説明を行っている。今年度で9年目を迎え、1,200人以上の初任者の先生に配布し、使用されている。平成16年には、利用アンケート集約結果を参考に、更に「アンチドーピング」「新入生に多いスポーツ障害とその予防」など新たな項目を追加し、翌17年に改

訂版を発刊した。この「運動部活動顧問のための指導ハンドブック」（含改訂版）発刊までの経緯は、平成16年度「全国研究大会三重大会」において発表させていただいた。(2) 「運動部活動顧問のための安全対策マニュアル」の発刊までの経緯

ハンドブックを発行した平成14年度を境に、北海道内での部活動加入率は微増傾向である。生徒数が減少する中、その教育的効果が認められているものと評価しつつ、研究部としてもその一役を担ったものとする。一方、大きな事故も稀ではあるが発生し、裁判までに発展するケースも発生してきた。指導者として、安全対策を十分に行い、「生徒が安全に活動でき」「保護者が安心して指導を委ね」「指導者が安心して指導に携われる」安心・安全の組織運営を目指したマニュアルづくりを手掛けた。



この安全対策マニュアルは、「部活動中の事故の現状」・「事故を未然に防ぐ対策」・「事故防止のためのチェックリスト」・「事故発生時及び事故後の対応」について掲載した。特に「事故防止のためのチェックリスト」については道高体連各専門部から協力をいただき、より具体的な項目についてチェックできるようにまとめ、どの種目の顧問になっても対応できるようにした。

例えば、バスケットボールであれば「床面に極端な凹凸はないか」「滑りやすい床になっていないか」などの施設設備での配慮・点検事項、「けがを再発防止に向けテーピングを必要としている選手に施しているか」「体調の悪い選手、けがをしている選手、精神的に不安定な選手はいないか」などの活動中の配慮事項のチェック項目を配置した。また、「緊急時の連絡体制は整備されているか」「医薬品の準備はできているか」などの救急体制における配慮事項をチェックシートにまとめた。さらに、各種目において代表的なけがについても取り上げ、より安全な指導に心がけてもらうよう工夫を重ねた。

平成19年度、安全対策マニュアルの完成年度では、折しも道高体連60周年の節目に当たり、北海道の高校における事故の現状分析、事故発生時や事故後の対応にも記述を加え、その冊子の発刊を周年事業の一環とさせていただいた。発刊に際し、北海道教育委員会健康安全課からの適切な指導助言、内容の精選についても、多大なご協力を賜りましたことを申し添えさせていただきます。

平成20年度4月には、北海道内全ての学校に配布することができた。道高体連ホームページ（以後：HP）にも従前のハンドブックとともにダウンロード（以後：DL）も可能とした。また、北海道教育委員会の協力を得て平成14年から継続してきた初任者研修会における配布・説明に、このマニュアル配布を追加した。

3. 結果及び考察

(1) 調査内容

- ① 調査期間：平成22年 7月22日～8月20日
- ② 調査対象：道高体連加盟校の運動部活動顧問及び平成20・21年度の新採用教諭
(各学校内で顧問が複数の場合その代表者)

(2) 回答数

- ① 高等学校数 195校（314校中）
- ② 顧問数 1,680名

(3) 「運動部活動顧問のための指導ハンドブック」の実態調査から

多くの顧問(62.7%)は、ハンドブックを所有・携帯し、存在を知っていて、効果的に活用されていると確認できた。また、63名(4%)の顧問が、道高体連HPからDLして所有している状況であった。

アンケートから

- ・教育活動の一環としての部活動で、生徒の安全確保、特に種目別に記載された内容は非常に参考になった。

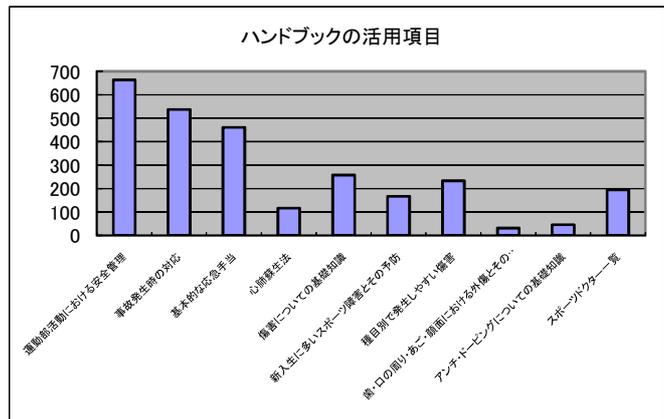
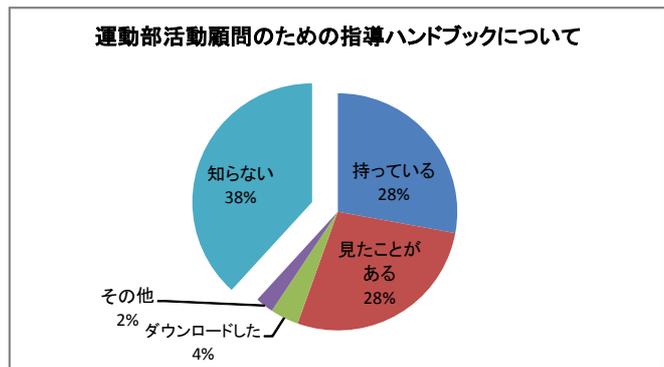
- ・専門知識がない者には必要である。経験豊富な指導者にも基本的なことを定期的を確認できる。

- ・専門種目以外を指導している顧問にとって非常に参考になる。

- ・体育教科以外の先生にとっては、初めての内容もあるそうです。重要な内容がまとめられてあって非常に参考になります。

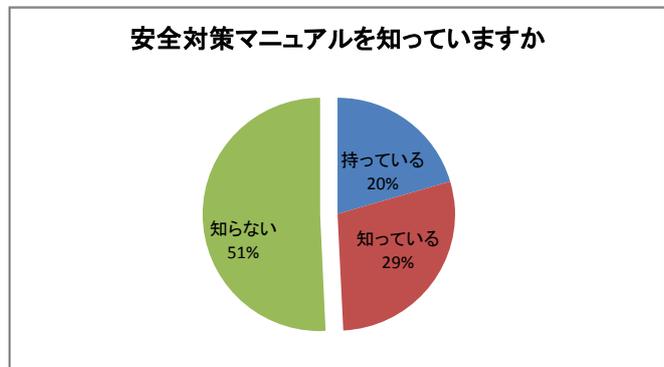
- ・顧問の意識向上に大変効果を上げている。

など、安全管理・安全指導及び傷害予防に関して有効であったと推察する。また、ハンドブックの項目から、「運動部活動における安全管理」「事故発生時の対応」「基本的な応急手当」を多くの顧問が活用している実態が見られた。これは、研究部が「安心・安全」に重点を置いた活動が成果を上げていることにもつながっている。また、けがをした生徒に対し、早期に活動を再開できるよう各顧問が医療機関を探す際に参考となる「北海道在住のスポーツドクター一覧」についても利用頻度が高かった。この一覧表については、毎年更新を要望する意見が多く寄せられた。

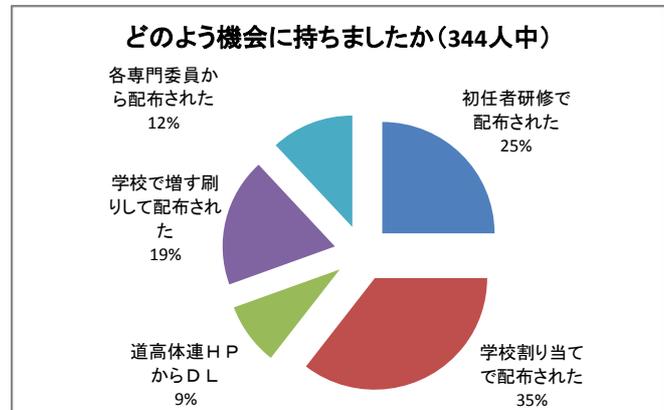


(4) 「運動部活動顧問のための安全対策マニュアル」の実態調査から

① 「持っている」「知っている」と「知らない」顧問が半々であった。「指導ハンドブック」の配布は改訂版を含め2回行われ、多くの先生方に届いたが、「安全対策マニュアル」は、各学校への発行冊数に限りがあり、全顧問へ行き届かなかった。今後は、PR方法と啓蒙活動を工夫するとともに、各学校へ配布した冊子や道高体連HPからのDLから、効果的に活用していただくようにしていく方策をとっていかねばならない。

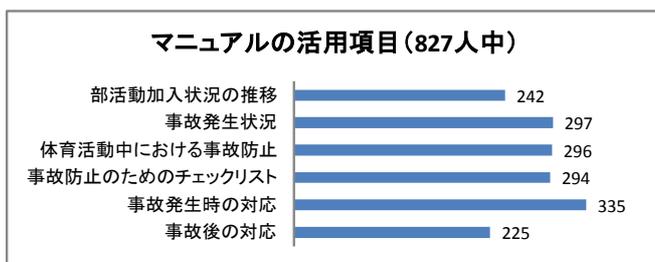


② 所有方法（所有者344人）から見ると、「初任者研修」と「学校配布」で60%となっているとともに、道高体連HPからのDLを含めプリントとして所有し、更に、各種大会の顧問会議で各専門委員が配布し、啓蒙活動を行っていることにも注目したい。



このマニュアルを手にした顧問からの反響は大きいものであった。普段から活動のあらゆる場面において安全面を配慮し部活動指導しているが、改めて確認することによって、注意点を整理することにつながっている。

③ 活用項目については、所有・知っている(827人)顧問が全ての項目を活用していると言える。



「安全対策マニュアル」では、特に、事故発生後の負傷した生徒及び保護者に対して誠意を持った対応を心がけること。また、事故の再発防止に向け、事故原因の究明とそれに基づく具体的な事故防止策の確立と実施の必要性がある。これらの対応は個人では難しい面もあり、専門家の意見や他の部活動顧問とも相談して組織的に進めることを提示した。

④ チェックリストから

各種目共通チェックリスト

施設設備	<input type="checkbox"/> 練習場に危険物がなく、整備されているか <input type="checkbox"/> 施設・設備に破損はないか <input type="checkbox"/> 施設・設備・用具・器具の日常的安全管理はできているか <input type="checkbox"/> 他の部活動との使用区分や使用時間は明確か
活動	<input type="checkbox"/> 活動目標や年間活動計画を作成しているか <input type="checkbox"/> 自ら用具・器具や練習場所の安全や、危険を予測し、回避する力を育成する指導をしているか <input type="checkbox"/> 顧問を明確に位置づけているか、可能な限り複数顧問制をとっているか <input type="checkbox"/> 新入部員の体力・技能に配慮し、加重負担になっていないか <input type="checkbox"/> 天候や気温、湿度などに配慮しているか <input type="checkbox"/> 種目特有の留意事項を指導しているか <input type="checkbox"/> 練習内容は種目の特性や、生徒の発達段階・体力・技能などの個人差を考慮しているか <input type="checkbox"/> 乱暴な行為の禁止について指導が徹底されているか <input type="checkbox"/> 部員の健康状態に常に配慮して、休息时间や水分補給を適切にとっているか <input type="checkbox"/> 部員の諸検査の結果やかかっている病気を把握し、配慮しているか <input type="checkbox"/> 一般道路でのランニングを行う際、顧問の監督下で交通安全などに配慮し、実施しているか <input type="checkbox"/> しごき、いじめ、暴力行為など起こらないように配慮しているか <input type="checkbox"/> 部員の服装は活動内容に適しているか <input type="checkbox"/> 活動内容を保護者に周知しているか
救急体制	<input type="checkbox"/> 緊急時の校内体制・連絡体制は整備されているか <input type="checkbox"/> 緊急連絡網は徹底されているか <input type="checkbox"/> 応急処置の準備はできているか <input type="checkbox"/> 部員自ら危険予測・回避する力を身につけるよう指導しているか

事故防止のためのチェックリストとして、まず「各種目共通チェックリスト」を作成した。施設設備面・活動場面・救急体制の3項目に分類し年度初め及び毎日の確認事項について活用していただくこととした。

また、種目別のチェックリストでは、代表的な事故事例を列記し、危機管理の意識高揚を図られるように配慮した。

アンケートからは、

・活動場面時で生徒の体調管理に配慮し指導に当たった

チェックリスト

バスケットボール

※技 幹

事故防止のためのチェックリスト

施設設備	<input checked="" type="checkbox"/> バスケットコートは整備されているか <input type="checkbox"/> 座席やベンチが壊れているか <input type="checkbox"/> ベンチの椅子などが整理されているか <input checked="" type="checkbox"/> バスケットコートやバスケットボードは安全か <input type="checkbox"/> ボードはしっかりと固定されているか <input type="checkbox"/> リング・ゴールネットは点検されているか <input checked="" type="checkbox"/> 服装・シューズはプレイにあっているか <input type="checkbox"/> プレイに適している服装か <input type="checkbox"/> シューズに異常は無いか、自分の技術・体力にあったシューズを履いているか
活動	<input checked="" type="checkbox"/> 安全な練習方法で活動しているか <input type="checkbox"/> ウォーミングアップは十分か <input type="checkbox"/> 体調の悪い選手、付がせている選手、痛帯的に不安定な選手はいないか <input type="checkbox"/> 膝関節のテーピングを必要とする選手にテーピングを施しているか <input type="checkbox"/> 練習内容の意義を理解し、安全面に注意を促して練習に臨んでいるか
救急体制	<input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制は整備されているか <input type="checkbox"/> RICE処置やテーピングなどの応急処置について、指導者・選手ともに十分理解しているか <input type="checkbox"/> 医薬品などの準備はできているか

代表的な事故事例

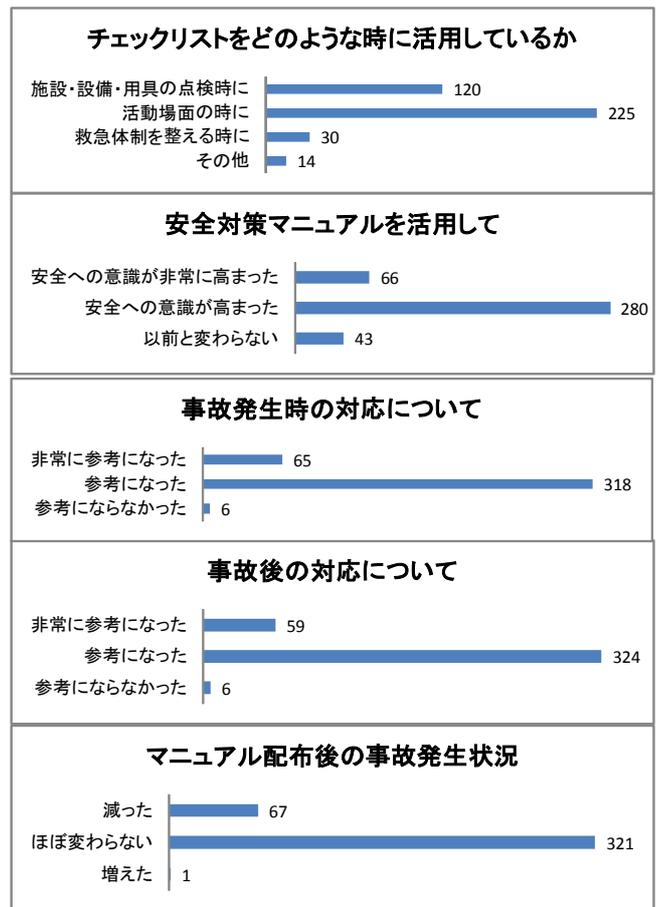
- ・身体接触プレイによる転倒で膝挫、打撲、場合によっては骨折
- ・急激な方向転換やジャンプ・ストップによる足首や膝関節の韧带損傷、アキレス腱断裂
- ・ボールキャッチの際の突指、手指の脱臼
- ・オーバーユースが原因で起こるシンスプリント
- ・不注意の身体接触による頭部や顔面の打撲

・各種目別に記載があり、非常に参考になった。
 また、事故発生時や事故後の対応についても詳細に記されていたので、いざという時に活用できる内容である

・種目別に分かれているので非常に参考になった
 ・日常の活動において注意していることであるが、チェックリストを見ることによって再確認することができた

・事故防止に向けて参考になった
 ・周囲の環境整備を考えるようになった
 ・安全対策について大まかな理解をしていたつもりであったが、改めて考えさせられ、実際に活用できる形へ進めることができた

・経験のないスポーツの顧問となった場合でも、この内容を読むことにより、生徒に対し何に気をつけるべきかの指導や呼びかけに役立っている
 ・事故後の対応策について非常に参考になったなどの意見が寄せられた。

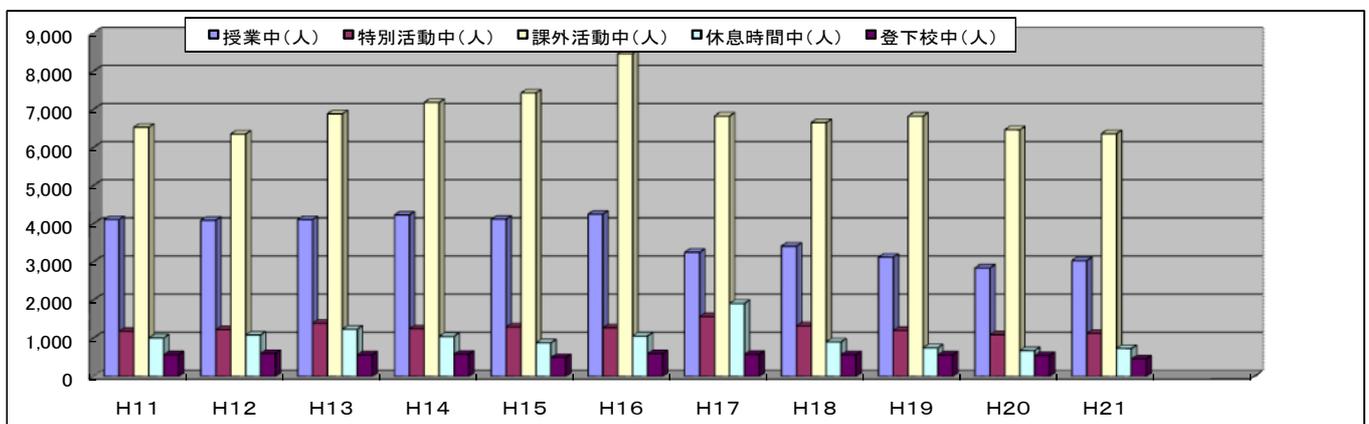


4. 作成・配布の効果と課題

(1) 効果

マニュアル配布後の事故発生状況では、各学校・顧問の段階で以前と変わらない事故件数であると判断された。しかし、道内の高等学校(全日制)における、「学校管理下における一般事故の発生状況（独立行政法人日本スポーツ振興センター（NAASH）の統計）」によると、平成16年度以降の課外活動中の事故件数が微減してきている。このことから、平成14年度に「指導ハンドブック」発刊時期から運動部活動加入率の上昇傾向が始まり、一端ケガの発生件数は増えたものの、平成17年に「指導ハンドブック（改訂版）」、平成20年度に「安全対策マニュアル」の発刊に伴い、各学校・各顧問の運動部活動における危機管理・安全対策への意識が高まり、減少傾向へつながってきていると推察する。

学校管理下における一般事故発生状況



「独立行政法人 日本スポーツ振興センターの統計」

(2) 課題

調査結果から、多くの顧問が危機管理への意識の高揚と安全対策への取り組む体制づくりを強く望み、「安全対策マニュアル」について周知徹底の必要性を感じられた。そのために、様々な会議での広報活動や学習会の開催など工夫しなければいけない。また、新たな事故発生事例の検証・保護者との対応事例を集約し、情報として提供していかなければならない。

5. まとめ

道高体連研究部では、指導者がより安全に部活動指導ができるように「運動部活動顧問のための安全対策マニュアル」の作成に着手した。高体連競技全 32 種目について、より具体的なチェックリストを掲載し、競技の特性を理解した上で顧問が少しでも『安心』して生徒の指導に当たることができるようなマニュアルを、平成 20 年度に発刊させることができた。その後、「学校管理下における一般事故発生状況」の課外活動中の事故件数推移が、「安全対策マニュアル」発刊後に減少傾向へとなっていることから、指導者が効果的に活用することで安全管理意識が高揚が図られ、生徒への安全指導が適切に実施できていると推察する。

今後は、アンケート調査で得られた問題点として安全対策マニュアルについて「知っている・持っている」割合が約 50 %だったことと様々な要望を整理し、課題解決に向けた取組を計画的に実施していかなければならない。また、一層の安全を図るため、平成 18 年度に「北海道高等学校体育連盟主催大会災害補償制度」を発足し運営しており、その実績と分析を行っている。報告については、本研究大会の「課題研究」として発表させていただく予定である。

最後に、発表にあたり道高体連各専門部・研究部員の先生方から協力をいただき、アンケート調査にご協力いただいた各高等学校の運動部活動顧問の先生方に心より感謝申し上げます。各都府県の皆様も、下記に案内した道高体連研究部活動内容につきまして、ご活用いただければ幸いです。

北海道高等学校体育連盟ホームページ

<http://www.hokkaido-koutairen.com>

北海道高等学校体育連盟「研究部活動」

<http://www.hokkaido-koutairen.com/30/>

運動部活動顧問のための指導ハンドブック（改訂版）

指導ハンドブック(1P～16P) (PDF)

<http://www.hokkaido-koutairen.com/pdf/handbook1.pdf>

指導ハンドブック(17P～42P) (PDF)

<http://www.hokkaido-koutairen.com/pdf/handbook2.pdf>

指導ハンドブック(43P～71P) (PDF)

<http://www.hokkaido-koutairen.com/pdf/handbook3.pdf>

運動部活動顧問のための安全対策マニュアル

運動部活動顧問のための安全対策マニュアル (PDF)

http://www.hokkaido-koutairen.com/pdf/undobu_anzen.pdf